（別紙８－２）　認知症対応型共同生活介護事業所外部評価結果公表様式

□はリンク　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 ※ グループホーム　久米

日付　平成 20年 6月 5日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員： 薬剤師・介護支援専門員

大学教員

自主評価結果を見る （工事中）

評価項目の内容を見る ※

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！） ※

１．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）（記述式）

　管理者はまだグループホームでの勤務経験はそれほど長くありませんが、できるだけ家庭的な雰囲気で穏やかな暮らしを入居者に送ってもらうのに不可欠な様々な配慮の基本はよく理解し実践しています。また日々の気付きを大切にし、それをもとに地道に介護サービスの改善に取り組んでいます。
　良質なサービスの提供や質の向上にはホーム全体で取り組むことが不可欠ですが、率直に意見交換ができるような良好な職員間の人間関係が保たれるよう配慮され、今後、さらなるサービスの質の向上が期待できます。

特に改善の余地があると思われる点（記述式）

　２つのユニットは建物が離れていて交流が少ないようです。職員の中にも「自分のユニットが」という意識が強いようです。また管理者や職員の経験に差があるようなので、知識や気付きを共有することでサービスの質の向上が一層はかれると思います。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目：グループホームとしてめざしているものは何か

記述回答：
安心して穏やかに暮らせる第二の我が家。
　職員間で率直に意見を述べ合うことができる雰囲気を作ることで職員間の良好な人間関係を維持する。そのことにより、ホームに和やかな雰囲気を作る。また、率直な意見を介護の質の改善に役立てることができるようにしています。
　日々の小さな気付きを大切にし、それを地道に介護の質の改善に役立てるようにつとめています。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目：入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

記述回答：
　職員はばたばたせわしく動かないことで、お年寄りが落ち着けるような雰囲気を作る配慮がさりげなくなされています。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目：一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

記述回答：
　部屋の掃除や食器の片付け、洗濯物干しなど、入居者が自分でできる家事は、自分で行ってもらうことで残存能力の維持につとめています。
　家事に時間がかかったり、不充分にしかできなくても職員が見守り待つことで、できるだけごく普通の日常生活に近い形のリハビリテーションをしています。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目：サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か

記述回答：
　理想のホーム像についてはまだ試行錯誤の部分もありますが、日々の小さな気付きを大切にし、それを地道にサービス内容に反映させています。気付きはノートに日々記録され、引継ぎや会議で、職員間で共有することで、サービスの改善が確実に行われるようにしています。率直な意見交換ができる良好な人間関係を職員間に築くことで、サービスの向上に対してホーム全体で取り組めるようにしています。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、県が別に定めるところにより自主評価結果を添付すること。